

消防だより



久米島消防
☎985-3281

文化財防火デーの実施

日本最古の壁画が描かれた法隆寺金堂が昭和24年1月26日に焼損し、その後も文化財の焼損が相次いだことから、消防庁と文化庁では、昭和30年に1月26日を「文化財防火デー」と定め、全国的に文化財防火運動を展開してきました。

文化財は、私たちの祖先が今日まで残してくれた国民共通の貴重な財産であり、一度燃えてしまうと二度と元には戻りません。文化財建造物の多くは木造建築であるため、いったん火がつくと延焼拡大が極めて速くなる恐れがあります。貴重な文化財を火災から守るためには、日頃から防火意識を持ち、関係者だけでなく、地域住民との連携・協力が必要です。

今年も久米島町では、1月26日(木)に久米島博物館、君南風殿内(字仲地)で、関係者及び地域住民が協力して、文化財消防訓練が実施されました。

久米島町の貴重な文化財を町民の皆さんと共に協力しあい、これからも防災・防災に努め火災から守っていきましょう!!



最新の高規格救急自動車が登場しました!



久米島町消防本部では、「平成28年度久米島射爆撃場等周辺消防施設整備助成事業」により、1月に高規格救急自動車が登場しました。この高規格救急自動車は、自動心臓マッサージ器(LUCAS)や高性能の高度救命処置用資機材を搭載しており、ますます多様化、高度化する救急現場に対し、より迅速に対応することが期待できます。

今後、町民のみなさんの期待に応えられるよう、より一層の救命効果の向上に向け努力して参りたいと思います。

※火災の早期発見と『逃げ遅れ』を防ぐために
住宅用火災警報器を設置しましょう。

※火事・救急・救助は119番へお願いします。

○消防法及び市町村条例(平成23年6月施行)により、すべての住宅に火災警報器が義務づけられました。

1月出動状況()は、平成28年累計

| | | | |
|-----------|----------|-----------------|--------|
| ●救急 | 36件(36件) | ●風水害 | 0件(0件) |
| ●火災 | 0件(0件) | ●捜索 | 0件(0件) |
| ●救助 | 0件(0件) | ●その他 | 0件(0件) |
| 合計 | | 36件(36件) | |

島ぐらしコンシェルジュ WELCOME HOME

輝く! 島人インタビュー

第6回 指導農業士 / 甘藷・サトウキビ農家 島袋 政春さん

移住定住相談窓口の「島ぐらしコンシェルジュ」が、輝く島人に島のことを色々教えてもらいます!

字島島出身。久米島高校卒業後、本土で働いた後島にUターン。重機のオペレーターをしながら、徐々に農家に転向。甘藷・サトウキビの他、現在は島ラッキョの栽培にも意欲的。



Q.座右の銘は?

「我慢と努力」です。台風がきたりして作物がダメになってしまっても、めげないで続けること、農業はコツコツ努力することが大事です。

Q.農業の魅力は?

農業は我慢と努力、そして忍耐の仕事です。でも頑張った分、ちゃんと作物は返してくれる、それが魅力かな。僕は、畑は外から見るだけでなく毎回中まで入って、丁寧に管理します。そうして手をかけると、収穫のときに収穫高が倍になったり、大きな差が出てきます。「誰が見ても恥ずかしくない畑」「ちゃんと管理してあると思われる畑」づくりを、プライドを持ってやっています。一生懸命やっているのは誰かが見ているはず。「島袋さん頑張ってますね」と言われるように努力したいと、いつも思ってますね。農業はマラソンに似ています。僕はマラソンが好きで大会に出たりもするんですが、「これだけ僕は根性もあるのに、人に負けるか」という気持ちはいつも持っています。農業も同じです。マラソンは途中で諦めたらゴール出来ない。農業も収穫まで頑張って初めて収入になる。手をかけた分、作物は戻ってきますよ。それは確かです。

Q.農業で目指していることは?

新規就農の若者にアドバイスをしたり、一緒に農業をしたいという想いがあります。『若者でも頑張れば農業で生計を立てられる』というのを一緒に証明し、『農業にも可能性がある』というのを伝えたいです。これまでも新規就農の若者を自分の畑に呼んだり、機械の使い方を教えたり貸し出ししたりしてきましたが、今は農業指導員もしています。甘藷や島ラッキョなどの野菜を育てれば、規模が小さい

畑でも高めの収入を得ることができますが、機械なしでは手作業で植え付けをすることになり大変です。しかし、機械を新たに購入することも若い人には難しい。そこで、既に持っているトラクターで植え付けできないか、アタッチメントを色々試してみたらうまくいき、手作業より何倍も早く植え付けすることができました。工夫をして、若い農家でも効率よく収益を確保できる方法を日々模索しています。

アリモドキゾウムシが根絶され、今久米島産の甘藷は沖縄本島ですごく注目されています。サトウキビと甘藷を中心に、島ラッキョと組み合わせたり、機械化したりしながらやっていけば、効率も収入もよくなるはずなので、今意欲的に取り組んでいます。「工夫してやったらこれだけ儲かったよ、これで食べていけるよ」というのを率先して若い人に見せていきたいと思っています。

Q.政春さんにとって久米島はどんな島?

「島の若者と豊かな農業ができる島」です。工夫して農業していけば、久米島は若い農家でも十分食べていける可能性を持っていると思っています。これから久米島で農業をしたいという若い皆さんには、ぜひ熱心な農家と一緒に頑張ってほしいです。

ありがとうございました!

もっと詳しく読みたい、他の方のインタビューも読みたい方は [Q久米島 島ぐらしガイド](#) で検索

島コトニュース!

久米島町の移住定住 PR 動画が出来ました!

久米島の「食」を切り口に、島の美しい風景や食卓を囲んだ団欒の場、島人やUターン者のインタビューを通じて、島ぐらしの魅力を伝えています。YOUTUBEに掲載しておりますので、「食でつながる久米島」で検索して下さい。



※お問合せ※

企画財政課 島ぐらしコンシェルジュ

HP: <http://www.shimagurashi.net> 「久米島 島ぐらしガイド」で検索
Tel:985-7122 FAX:985-7080



少しずつ掲載情報も増えています!
求人・住宅情報登録のリクエストも受付中です!